

令和3年2月2日

秋田市立広面小学校 令和2年度第三回学校運営協議会 記録

1 日時 令和3年2月2日（火）10：30～12：00

2 会場 秋田市立広面小学校 コンピュータ室

3 次第

（1）児童の活動参観（自由参観） 10：40～11：00

・児童縦割り活動「太陽っ子活動」

（2）懇談 11：05～12：00

①校長あいさつ

②学習指導について

・学習に関する諸調査の結果報告

・意見交換

③学校評価を踏まえた次年度方向性の検討

・学校評価保護者アンケートの結果報告

・意見交換

④その他

・来年度の学校運営協議会組織づくりについて

4 参加者

広面小学校同窓会顧問

伊藤 薫

広面小学校 P T A 会長

繁里 昭

広面地区連合町内会長

佐藤 純

広面地区社会福祉協議会会长

榎本 志千良

広面地区スポーツ育成会会长

鎌田 重憲

秋田地区交通安全協会広面支部理事

畦田 清一郎

広面地区市民憲章推進協議会会长

坪井 康雄

秋田東警察署城東交番所長

佐藤 宏樹

広面地区体育協会会长

金 久昭

広面小学校長

大和田 朋子

※「学習指導について」の説明のため、研究主任の小武海誠が出席した。

5 懇談記録

①校長あいさつ

- ・県の新型コロナ感染警戒レベルが上がったことに伴い、学校では更なる対応強化を図っている。こうした状況下でも、皆様から学校運営の後押しをいただき大変心強く思っている。
- ・先ほどは子どもたちの主体的な活動「太陽っ子活動」の様子をご覧いただいた。6年生が主体となって活動を進める様子はどうだったであろうか。後ほど、ご意見を頂戴したい。
- ・本日は各種調査の結果を踏まえながら今年度の学習指導を総括するとともに、学校評価保護者アンケートの結果を踏まえながら次年度の広小教育に関する方向性を確認していきたい。委員の皆様からは忌憚のないご意見、ご提言を頂戴したいと考える。よろしくお願ひする。

②学習指導について

【学習に関する諸調査の結果報告】(小武海研究主任)

- ・今年度の4～6年生の学習状況調査と5年生の基礎学力調査の結果をグラフに表した。
- ・成績は、各学年、各教科とも7割程度。5年生は県平均よりも上回っている。
- ・4、6年生は県平均より下回っているが、差は大きくない。
- ・質問紙の結果から、勉強が好きだという子どもはまだ増加の余地がある。勉強が大切であると考えている子どもが多い。学習内容を理解しようと一生懸命学んでいることがうかがえる。
- ・この結果を踏まえて、本校の子どもが苦手とする問題をピックアップし、今後どのような指導をしていったらよいのか話し合い、全体で共有した。早速次の日の授業から、授業づくりに生かしている。
- ・来年度を見据えて学習指導の目標や手立てを見直すとともに、残り2か月の学習指導を頑張っていきたい。

【意見交換】

- ・先生方が一生懸命指導に当たっていることが見てとれる。教育に必要なのは良好な学習環境である。学級経営に力を入れることや、教師の子どもへの接し方が大切。間違いを頭ごなしに否定するのではなく、再び意欲的に学習に向かう気持ちにつながる声かけが大切であると思う。これまで、探究的な学習で子どもの知的好奇心を引き出してきたものだが、その辺はどうか。(伊藤薰委員)
- ・「探究的な学習」に関連し、これまで4年間道徳科の研究を進めてきたが、導入の段階で問題意識をもたせたり、興味・関心をもたせたりすることを重点の一つとしてきた。それは、各教科の学習指導でも同様に、大事にしながら指導に当たっている。(小武海研究主任)
- ・5年生の成績がよかつたのはなぜか。特別に昨年度からの指導方法の引継ぎがあったのか。(榎本委員)
- ・5年生は市と県、両方の学力調査がある学年である。これまでの問題を解くなどして早い時期から準備してきた側面もある。これにより、子どもたちは問題文をしっ

かりと読み取り、問われていることは何かを正確に掴み、どのように答えるとよいか考えて、より正確に答える力が付いたと考えられる。ただ、6年生も昨年度に比べ、県平均との差が小さくなり、全体的に力が伸びてきている。個別指導に力を入れ、集団内の学力差を小さくできるよう取り組んでいきたい。（小武海研究主任）

③学校評価を踏まえた次年度方向性の検討

【学校評価保護者アンケートの結果報告】（築地教頭）

- ・保護者には、校長の学校経営の重点に沿った12の具体的な実践事項の達成状況や満足度について「思う」「大体思う」「あまり思わない」「思わない」「分からぬ」の五つの選択肢から選んで回答してもらった。
- ・自由記述欄を設け、意見や質問、提案を具体的に書くことができるようとした。
- ・秘匿性を高めるとともに、保護者の回答や教員による集計を容易にするため、原則としてWebページにアクセスして回答してもらう形をとった。回答率の上昇にはつながらなかつたが、ほぼ例年並みの回答数をいただいた（全家庭の8割超）。
- ・ほぼ全ての項目について、8割以上の保護者から肯定的な評価をいただくことができた。学校の取組について概ね認めていただくことができたものと考える。
- ・「健康・安全に関する取組」や「学校の取組を保護者や地域に発信する取組」などは特に高評価をいただいた。新型コロナウイルス感染症への対策が求められる中、こうした項目の評価が高いことは価値あることと捉えている。
- ・肯定的な評価が下がった項目もある。くわしく見ると、否定的な回答が増えたではなく、軒並み「分からぬ」の回答が大きく増加していることが分かる。
- ・「分からぬ」の回答が上がった項目は「授業づくり」「学年・学級づくり」「学習指導の具体」「保護者や地域との絆を意識した取組」などである。これらは、例えば授業参観や学校開放、各種学校行事の公開、PTA活動などと密接に関わっている項目である。新型コロナへの対応などから、保護者は、学校の取組を自分の目や耳で十分に実感できなかつたと感じていることが予想される。
- ・のことから、学校の取組を保護者や地域の方々に一方的に発信するだけでは不十分であり、取組を体験的に共有し、取組を通じて保護者や地域と学校、教員がつながっていくこともまた重要であると考える。
- ・コロナ禍で大変な状況はこれからもしばらくは続くものと思うが、その中で「できることは何か」「教育効果を高める工夫はできないか」「どうすれば取組を保護者や地域と実感的に共有できるか」を考え、全教職員で取り組んでいきたい。

【意見交換】

- ・資料「令和2年度 学校評価のまとめ」の「③評価項目と質問の具体」の見方を教えていただきたい。（伊藤委員）
- ・学校評価アンケートの12の質問が、年度当初に校長が示した学校経営の重点のどれを評価するために設問したものであるのか確認できるように示している。（築地教頭）
- ・保護者からの記述の欄に、家庭学習ノート等への教師からのコメントに関する肯定的な意見と否定的な意見があつてとまどつた。学校ではどのように捉えているか。（伊藤委員）
- ・先ほどの結果報告でも述べたが、学習指導に関する取組は概ね認めていただいている

る。ただ、一つ一つの取組の具体については、教師によって差が見られる取組もあると捉えている。教師の声かけが子どものやる気や達成感につながることから、これからも児童のがんばりの見取りと評価に全職員で取り組んでいきたい。なお、対照的な意見をどちらも記載したのは、両方の意見が見られたことをお伝えしたかったからである。うれしい意見にも厳しい意見にもきちんと目を向けて学校の取組をより良いものにしていきたい。（築地教頭）

- ・肯定的な意見が多く、学校の取組を保護者があたたかく評価してくださっていることが分かり、うれしくなった。項目によって学校側が考える質問の意図がうまく伝わっていないことがあるかもしれない、文言を分かりやすくするなどして問い合わせてみたらどうか。（鎌田委員）
- ・わたしたちも保護者からのあたたかいエールに元気付けられる。質問紙の書きぶりについてはこれまで見直しを図ってきているが、保護者にしっかりと伝わるようにすることは大切である。このアンケートでは経年変化も見ていきたい考えているので、そうしたことでも踏まえながら改善を図っていきたい。（築地教頭）

（事務局から、来年度の運営協議会組織づくりの方向性と流れが示され、委員の了承を得た。）